

第8回シンポジウム『未来志向の次世代食品機能性と自然免疫』が開催されました

日 時 2019年3月15日(金) 13:00～17:45
場 所 笹川記念会館(東京都港区三田3-12-12)

我が国が長寿社会であることは誇るべきことでありますが、その一方で、高齢化に伴い医療費が年々増加していることから、超高齢化社会において良好なQOLを保つ対策を具体的に展開することは今後の大きな課題とされており、そのための具体的な取り組みの一つとして、次世代食品機能性に関する研究は広がりを見せております。

こうした動きなどを踏まえ、自然免疫制御技術研究組合では、大きな社会的課題とされている「健康寿命の延伸」に直結する「自然免疫」の果たすべき役割などを多くの皆さまに紹介することを目的として掲げつつ、平成26年度からの5か年計画で内閣府が進めてきたSIP(戦略的イノベーション創造プログラム※)プロジェクトのアウトリーチ活動も兼ねて、本年3月15日、第8回シンポジウムを開催いたしました。(参加者は、健康食品企業・一般市民など約160名)



※ 平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」及び「科学技術イノベーション総合戦略」に基づき創設されたもので、総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮し、府省の枠を超え、基礎研究から実用化・事業化までをも見据えた研究開発を推進し、イノベーションの実現を目指している。

冒頭、本組合の代表理事は、開会挨拶の中で「自然免疫に関する研究は爆発的に展開し、次世代の食品機能性と自然免疫は、健康寿命の延伸を図るカギとして大きな社会的貢献につながると期待されるまでに成長した」と述べられ、続く農林水産省、経済産業省、(一財)バイオインダストリー協会の来賓挨拶の後、以下の各氏からご講演を頂きました。

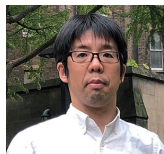
- ◇ 芦田 均 氏 (神戸大学大学院農学研究科教授)
「血管機能改善効果の観点からの黒大豆ポリフェノールの機能性」
- ◇ 亀井 飛鳥 氏 (神奈川県立産業技術総合研究所 主任研究員)
「食品の機能性評価研究事例」
- ◇ 岡田 晋治 氏 (東京大学大学院 農学生命科学研究科 准教授)
「身体ロコモーション改善に資する食品素材」
- ◇ 二川 健 氏 (徳島大学大学院 医歯薬学研究部 教授)
「近未来型宇宙食糧ソリューションの提案」
- ◇ 田中 史子 氏 (早稲田大学重点領域研究機構 次席研究員)
「高齢者の身体能力に及ぼす運動×機能性食品の相乗効果～時間栄養学・運動学の観点から～」
- ◇ 敷村 公子 氏 (浜松ホトニクス株式会社 中央研究所 専任部員)
「光センシングによるホメオスタシス多視点評価オンサイトシステム」
- ◇ 稲川 裕之 氏 (自然免疫制御技術研究組合 研究開発本部長)
「LPS経口投与によるアルツハイマー病予防・治療効果のポテンシャル」



芦田 均 氏



亀井 飛鳥 氏



岡田 晋治 氏



二川 健 氏



田中 史子 氏



敷村 公子 氏



稲川 裕之 氏

平成26年度から5年計画で取り組まれてきたSIPプロジェクトが最終年度を迎えた中、今回のシンポジウムは、SIPでご活躍の若い研究者を中心に自らが携わっている研究内容に関するお話を出来るだけ数多く頂く機会として開催したこともあって、最後の挨拶(上田和男同組合副代表理事)まで席を立たれる方がほとんどいないなど過去にない盛況を呈し、閉会となりました。